

※本リリースは国土交通記者会・交通運輸記者会に配布しております。

2022年1月21日

2021年度「国際会議誘致・開催貢献賞」の受賞会議が決定！

日本政府観光局（JNTO）では、毎年、優れた国際会議の誘致や開催に対して、「国際会議誘致・開催貢献賞」を選定しています。2021年度は、2024～2026年に日本での開催が決定した3件の国際会議を選出しました。それぞれの誘致活動では、SDGsへの対応、地元企業・産業と学会との連携や若手育成などの創意工夫がなされており、今後の国際会議誘致の模範になると考えています。また、今回応募のあった7件の会議はリアル開催を予定しておりますが、誘致活動においては事前準備や決定当日のプレゼンテーション、投票がすべてオンラインで行われています。このコロナ禍においても将来の国際会議開催を見据え、オンラインを活用し誘致活動を継続していく必要があります。JNTOでは、今回の賞の選定を経て得たノウハウを関係者にも共有し、地域が行う国際会議の誘致、開催を今後とも強力に支援していきます。

国際会議誘致・開催貢献賞とは：

【目的】 国際会議の開催は、国内各地へ外国人参加者の来訪を推進するのみならず、若手の育成、地元産業と学会を連携させることによる地域の活性化や経済発展に繋がる。貢献賞では、「先進性」、「独創性」を含んだ企画力や「地域貢献等を含んだレガシー」に優れている会議など、今後のベストプラクティスとなる国際会議の優れた事例を表彰し、会議主催者や一般の方に理解促進を図ることを目的としている。当事業は2008年より実施しており、本年で14年目を迎える。



【対象】 ・参加者総数が50名以上で、かつ参加者の国籍が日本を含む3か国以上で開催期間が1日以上
・2020年4月1日～2021年3月31日に誘致決定した国際会議

【表彰部門】 下記部門を表彰します。

・国際会議 誘致の部（「開催の部」の対象案件が少なかったため中止としました）

※受賞会議は、国際会議に関する有識者で構成される審査委員会での審査を経て決定しています。

■受賞会議 ※掲載は開催年月日順

【国際会議 誘致の部】

(※) 開催年については今後変更となる場合があります。

| 会議名 | 参加者数 | 開催予定年(※)、開催都市 |
|-----------------------------------|--------|---------------|
| 2024 IEEE ロボット工学とオートメーションに関する国際会議 | 5,000人 | 2024年、神奈川県横浜市 |
| 第27回国際昆虫学会議 | 3,000人 | 2024年、京都府京都市 |
| 第36回国際病理アカデミー国際会議 | 3,000人 | 2026年、福岡県福岡市 |



2024 IEEE ロボット工学とオートメーションに関する国際会議



第27回国際昆虫学会議



第36回国際病理アカデミー国際会議

2021 年度「国際会議誘致・開催貢献賞」の受賞会議

別紙

国際会議 誘致の部 3 件

| | | | |
|------------------|---|-----------|-------------------------|
| 会議名 | (和名) 2024 IEEE ロボット工学とオートメーションに関する国際会議 | | |
| | (英文) 2024 IEEE International Conference on Robotics and Automation | | |
| 主催者 | 米国電気電子学会ロボット工学とオートメーション学会 | 開催都市 | 神奈川県横浜市 |
| 開催期間 | 2024 年 5 月 13 日～5 月 17 日 (5 日間) | 競合 | ソウル (韓国) |
| 参加予定人数 (外国人参加者数) | 5,000 名 (4,000 名) | 参加予定国・地域数 | 35 カ国・地域 |
| 受賞理由 | <p>誘致のプレゼンテーションにあたって JNTO の制度をうまく活用してネイティブスピーカーの専門家による英語のプレゼン指導を受け主催者が自信をもってプレゼンに臨めたこと、横浜の学生との取り組みや高校生の招待など若手育成にも力を注ぐことを提案するなど、オールジャパンで効果的に横浜を PR したことにより競合ソウルに勝てた好事例である。</p> <p>※表面写真：プレゼンテーション時の開催地イメージ写真</p> | | |
| 会議名 | (和名) 第 27 回国際昆虫学会議 | | |
| | (英文) XXVII International Congress of Entomology | | |
| 主催者 | 第 27 回国際昆虫学会議招致委員会 | 開催都市 | 京都府京都市 |
| 開催期間 | 2024 年 8 月 25 日～8 月 30 日 (6 日間) | 競合 | トルコ |
| 参加予定人数 (外国人参加者数) | 3,000 名 (2,000 名) | 参加予定国・地域数 | 30 カ国・地域 |
| 受賞理由 | <p>国内の受け入れ側のレベルの高さ (実績、参加者数、メディア露出、スポンサーシップ) が国際本部に高く評価された。また、日本の複数の昆虫関係の団体が一丸となって協力し誘致に取り組んだ点、ジェンダーバランス、プログラム内容の工夫、主催者の熱意による市民プログラムの企画など、主催者の誘致に関する意欲的な志しが評価された。</p> <p>※表面写真：プレゼンテーション練習のシーン (ネイティブ講師による指導：JNTO 支援)</p> | | |
| 会議名 | (和名) 第 36 回国際病理アカデミー国際会議 | | |
| | (英文) XXXVI International Congress of the International Academy of Pathology | | |
| 主催者 | 国際病理アカデミー日本支部 Japanese Division of IAP(JDIAP) | 開催都市 | 福岡県福岡市 |
| 開催期間 | 2026 年 10 月 10 日～10 月 14 日 (5 日間) | 競合 | リヨン (フランス)、バルセロナ (スペイン) |
| 参加予定人数 (外国人参加者数) | 3,000 名 (1,500 名) | 参加予定国・地域数 | 50 カ国・地域 |
| 受賞理由 | <p>主催団体、大学、地域、JNTO の 4 者が一体となり、敗退を糧に再チャレンジし開催地である九州を盛り上げた好事例。過去に誘致失敗した経験をもとにビッドペーパー等の改善を重ね、ロビー活動の重要性を見直し長期に亘る情報収集ときめ細やかな国際メンバーへの働きかけの結果、誘致成功にこぎつけた点が評価された。</p> <p>※表面写真：ビデオプレゼンテーション (4 参加者のバックを同会議用に統一：JNTO 支援)</p> | | |

【お問い合わせ先】 MICE プロモーション部 誘致推進グループ
 担当：清水・氷室 TEL：03-5369-6015
 E-MAIL：convention@jnto.go.jp